

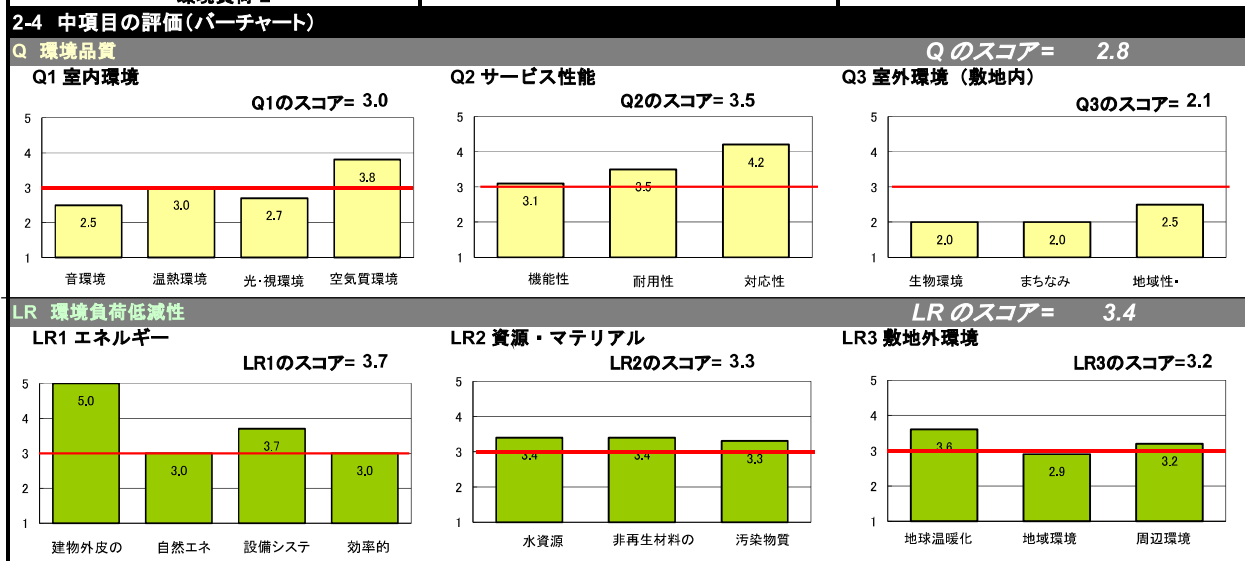
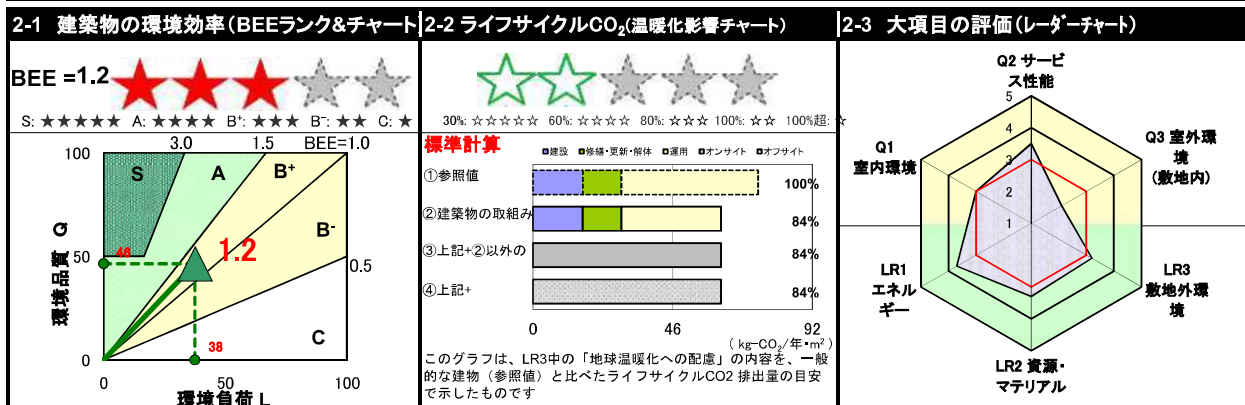
建築物名称	(仮称)昭和冷蔵庫株式会社富士物流センター 新築工事
受付日	令和5年11月17日
建物所在地	静岡県富士市大淵字垣ノ内3177-1、3177-4、3179、3182-2及び敷地内官有地
構造規模等	鉄骨造／地上3階／延床面積5, 339. 20平方メートル／新築
建物用途区分	事務所、工場
建築主	昭和冷蔵株式会社 代表取締役 佐橋知泰
工事完了予定日	令和7年2月10日

CASBEE[®]-建築(新築)

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)昭和冷蔵株式会社富士物流	階数	地上2F
建設地	静岡県富士市大淵字垣ノ内3177-1	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	45 人
地域区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年2月 予定	評価の実施日	2023年10月23日
敷地面積	7,860 m ²	作成者	相模 明
建築面積	2,817 m ²	確認日	
延床面積	5,339 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合 これは、CASBEE静岡(2021 SDGsなし)による評価である。		その他 昭和冷蔵は、冷蔵倉庫を中心に総合物流事業および賃貸冷凍庫事業を手掛けています。
Q1 室内環境 1階事務室1.2共に、全体の平均照度が600lxを超えるように設計し、室内の明るさを確保した。	Q2 サービス性能 ・給排水設備には、期待耐用年数は40年以上の材料を使用した。 ・建築基準法(全国)の基準の125%分の耐震性を有する。	Q3 室外環境 (敷地内) ・外構緑化指数16%分の緑地を確保した。 ・空調機の排熱は全てGL+10mの位置に配置し、高い位置での排熱に努めた。
LR1 エネルギー BPlm=0.75, BEIm=0.73を記録し、省エネ法に十分に適合している。	LR2 資源・マテリアル WCIにおいて、自動水栓手洗器と節水型便器を採用。エントランス床に特定調達品目、事務室床にエコマーク商品の品目を使用した。	LR3 敷地外環境 夏季の卓越風向に対し、見付面積40%に抑え、隣等間隔指数1.74を記録し、敷地の風通しを向上させた。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

1. 建物概要											
建物名称	(仮称)昭和冷蔵株式会社富士物流センター 新築工事					BEE	1.2	BEEランク	B+	★★★	
2. 重点項目への取組み度											
重点項目	得点*/満点		取組み度				評価				
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)	3.3	/5	    				ふつつ				
“災害に強いずおか”の形成 (Disaster)	3.4	/5	    				ふつつ				
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)	3.0	/5	    				ふつつ				
“緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)	2.5	/5	    				がんばろう				
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示 します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい 4 点以上			ふつつ 3 点以上			がんばろう 3 点未満	
3. 重点項目についての環境配慮概要											
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。						内訳対応項目					
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)						得点		3.3			
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④給排水設備の期待耐用年数は40年以上。					Q-1 2 2.1 2.1.2 ①	外皮性能				
						Q-1 3 3.1 3.1.3 ②	昼光利用設備				
						3.2 3.2.1 ③	昼光制御				
						Q-2 2 2.2 2.2.1 ④	躯体材料の耐用年数				
						2.2.2 ④	外壁仕上げ材の補修必要間隔				
						2.2.3 ④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔				
						2.2.4 ④	空調換気ダクトの更新必要間隔				
						2.2.5 ④	空調・給排水配管の更新必要間隔				
						2.2.6 ④	主要設備機器の更新必要間隔				
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤外構緑化指数16%分の緑地を確保。 ⑥空調機の排熱は全てGL+10mの位置に配置し、高い位置での排熱に努めた。					Q-3 1 ⑤	生物環境の保全と創出				
					3 3.2 ⑥	敷地内温熱環境の向上					
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦BPI _m =0.75を記録。 ⑧BEI _m =0.73を記録し、省エネ法に十分に適合している。					LR-1 1 ⑦	建物外皮の熱負荷抑制				
						2 ⑧	自然エネルギー利用				
						3 ⑨	設備システムの高効率化				
						4 4.1 ⑩	モニタリング				
						4.2 ⑩	運用管理体制				
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪WCIにおいて、自動水栓手洗器と節水型便器を採用。 ⑫エントランス、事務室の床にリサイクル資材を使用 ⑬壁・天井はいずれもLGS+PBまたは外壁表し。事務所床にはOAフロアを使用。 ⑬各断熱材はいずれもODP=0,GWP=最大3					LR-2 1 1.1 ⑪	節水				
						1.2 1.2.1 ⑪	雨水利用システム導入の有無				
						1.2.2 ⑪	雑排水等利用システム導入の有無				
						2 2.1 ⑫	材料使用量の削減				
						2.2 ⑫	既存建築躯体等の継続使用				
					2.3 ⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用					
					2.4 ⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					
					2.5 ⑫	持続可能な森林から産出された木材					
					2.6 ⑫	部材の再利用可能性向上への取組み					
					3 3.1 ⑬	有害物質を含まない材料の使用					
					3.2 3.2.1 ⑬	消火剤					
					3.2.2 ⑬	断熱材					
					3.2.3 ⑬	冷媒					
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭ライフサイクルCO2が参照値に対して84% ⑮夏季の卓越風向に対し、見付面積40%に抑え、隣等間隔指数1.74を記録し、敷地の風通しを向上させた。					LR-3 1 ⑭	地球温暖化への配慮					
					2 2.2 ⑮	温熱環境悪化の改善					
“災害に強いずおか”の形成(Disaster)						得点		3.4			
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑯建築基準法(全国)の基準の125%の耐震性を有する。 ⑰機械・配管支持方法はAランクを満たす条件となっている。					Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯	耐震性				
						2.1.2 ⑯	免震・制振性能				
						2.4 2.4.1 ⑰	空調・換気設備				
						2.4.2 ⑰	給排水・衛生設備				
						2.4.3 ⑰	電気設備				
						2.4.4 ⑰	機械・配管支持方法				
						2.4.5 ⑰	通信・情報設備				
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)						得点		3.0			
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑱倉庫の階高平均(7.2+6.4)/2=6.8 ⑳2階倉庫部分の壁長さ比率は0.09					Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画				
						3 3.1 3.1.1 ⑲	階高のゆとり				
						3.1.2 ⑲	空間の形状・自由さ				
	■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑屋外照明を分散させて配置し、夜間の防犯に役立つよう配慮した。					Q-3 3 3.1 ㉑	地域性への配慮、快適性の向上				
“緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)						得点		2.5			
	■室外環境(敷地内)対策 (㉒生物環境の保全と創出/㉓まちなみ・景観への配慮/㉔敷地内温熱環境の向上) ㉒外構緑化指数16%分の緑地を確保。 ㉓空調機の排熱は全てGL+10mの位置に配置し、高い位置での排熱に努めた。					Q-3 1 ㉒	生物環境の保全と創出				
						2 ㉓	まちなみ景観への配慮				
						3 3.2 ㉔	敷地内温熱環境の向上				
■敷地外環境対策 (㉕持続可能な森林から産出された木材/㉖温熱環境悪化の改善) ㉖夏季の卓越風向に対し、見付面積40%に抑え、隣等間隔指数1.74を記録し、敷地の風通しを向上させた。					LR-2 2 2.5 ㉕	持続可能な森林から産出された木材					
					LR-3 2 2.2 ㉖	温熱環境悪化の改善					